

# 北部保健所(宇佐・高田地区)の感染症情報

5月

2025年 第19週 (5月5日～5月11日)

## 感染性胃腸炎に引き続きご注意ください。(12.67人/定点医療機関あたり)

細菌又はウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はウイルス感染(ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルス)などが多く、そのほかにも細菌性のももみられます。主症状は嘔吐と下痢であり、脱水症状、電解質喪失症状、全身症状などがあります。嘔吐又は下痢のみの場合や、嘔吐の後に下痢が見られる場合と様々で、症状の程度にも個人差があり、37～38℃の発熱がみられることもあります。集団発生を起こすことがありますので、石けんによる正しい手洗いを習慣づけましょう。

## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎にごご注意ください。(2.67人/定点医療機関あたり)

A群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症で、小児に多い急性の咽頭炎です。潜伏期間は2～5日とされ、手指や飛沫を介して感染します。高熱とどの痛みで始まり全身に赤い発疹が広がります。合併症として肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などを起こすことがありますので、注意が必要です。初期症状は風邪に似ていますが、ウイルス性の風邪とは違い、抗生物質がよく効きますので、薬をきちんと服用して、除菌することが大切です。



## 百日咳にごご注意ください。

百日咳は、世界的にみられる疾患であり、小児に多くみられ、重症化しやすく、特に1歳以下の乳児には注意が必要な感染症です。通常7～10日間の潜伏期間を経て、臨床経過は、普通のかぜ症状で始まる「カタル期」(約2週間持続)、特徴のある発作性のけいれん性の咳(痙咳、けいがい)がでる「痙咳期」(約2～3週間持続)、激しい発作性の痙咳が減衰し、回復へ向かう「回復期」(2、3週～)に分けられます。成人の百日咳では咳が長期にわたって持続し、典型的な発作性の咳嗽(がいそう)を示すことなく、回復に向かうことが多いですが、菌の排出があるため、注意が必要です。

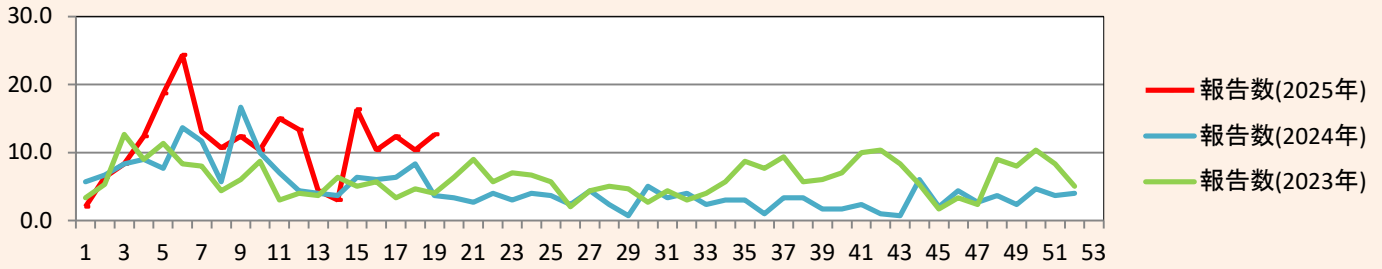
主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染ですが、接触感染にも注意が必要です。咳が出るときはマスクを着用するなど咳エチケットを徹底することのほか、手指消毒・手洗いの励行など基本的な感染対策が大切です。



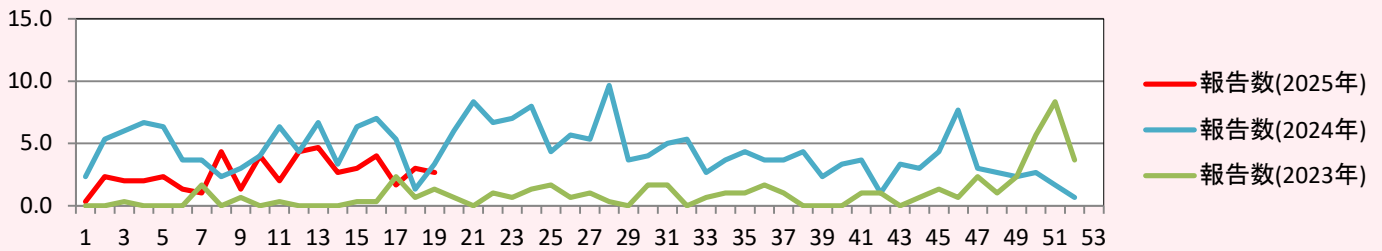
	インフルエンザ			新型コロナウイルス	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(りんご病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	
	A型	B型	不明													
0歳								0.33	0.33							
1～3歳							0.67	3.00						0.33		
4～6歳							0.33	2.33								
7～9歳							1.00	4.00								
10～14歳				0.20			0.67	2.33								
15～19歳								0.67	0.33							
20歳以上	0.20			1.80												
計	0.20			2.00			2.67	12.67	0.67					0.33		
70歳以上(再掲)				0.40												
前週		0.80	0.20	1.40			3.00	10.33	0.33							
		1.00														

※指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上(定点医療機関数 インフルエンザ/COVID-19定点5、小児科定点3)  
 ※端数処理のため、合計と年齢ごとの数値は一致しないことがあります。

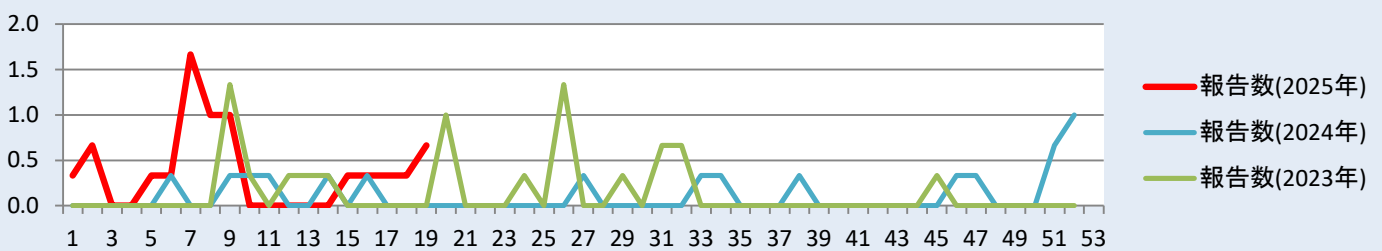
### 定点当たり報告数 感染性胃腸炎



### 定点当たり報告数 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



### 定点当たり報告数 水痘(水疱瘡)



疾患ごとの警報・注意報の基準値は以下のとおりです。

症状	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

- ・「警報」: 大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指します。
- ・「注意報」: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

お問い合わせ

北部保健所  
豊後高田保健部

0979-22-2210  
0978-22-3165

[a12089@pref.oita.lg.jp](mailto:a12089@pref.oita.lg.jp)